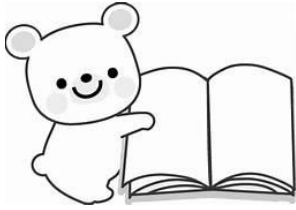


ほんじつ ～本日のおすすめの本⑪～



『けもの そうじゃ 獣の奏者』



うえはしなほこさく
上橋菜穂子 作

しゅつぱんこうだんしゃ
出版:講談社(2008年)

*この本は9類の文庫の書棚にあります。(貸出可能)

うえはしなほこさんは「精霊の守り人」シリーズで大変有名な作家です。綾瀬はるかさんという女優さんがドラマで演じた「バルサ」は本当に素敵でした。

うえはしなほこさんの作品は、たくさんあり、子どもだけではなく、大人も楽しみ、感動する作品ばかりです。その中でもおすすめの本が、この「獣の奏者」シリーズです。

10歳の少女エリンは緑の瞳をしています。母親と二人暮らしですが、幸せに暮らしていました。母のソヨンは、凶暴な生き物であり戦争でも利用される「鬪蛇」の世話をしています。ある日、その「鬪蛇」がいっせいに死んでしまいます。その責任を追及され、母のソヨンは捕らえられてしまいます。

けっして人には馴れないという獣、そして、人に馴らしてはいけないという獣と共に生きる運命を背負ったエリンの壮大な物語がはじまります。

「生きるもの生命のありかたとは・・・」を問う大きなテーマが背後に流れ、読み終えたとき、生きるものすべての命の尊さへの思いをふかめることができる作品です。

今年度の5年生の教科書「本は友達～作家で広げるわたしたちの読書」の単元でも紹介されています。とても悲しいおはなしではありますが、命の在り方・命の尊さについて、こんな時だからこそ、本を通して味わってみてください。ファンタジーの醍醐味といったものがすべて詰まっています。わくわくドキドキ・・・だれもが、エリンの身になって本を読み進めていける上橋菜穂子さんの文章力にも感動しますよ。ぜひ、保護者のみなさまも読んでみてください。

じぶんよ
自分で読むなら4年生以上
ネット上で、アニメにもなっています。

おしらせ

ほごしや
保護者のみなさまでも、上橋菜穂子さんの本を読みたい人は、学校司書にお問い合わせください。

